


令和6年度（2024年度）学校版環境ISOへの取組

< 学校名：山鹿市立菊鹿小学校 >

2 取組の概要報告

(1) 取組の概要

項目	活動の様子（写真）	取組の実際
宣言		<p>本年度も、新型コロナウイルス感染症等の予防は必要であり、手洗いを頻繁にしたり、換気をしながら冷暖房をつけたりすることが多くなることが予想された。熱中症警戒アラートも出され、その対策も必要であった。その中で、これまでの宣言を引き継ぎ、児童の身の回りに目を向け、身近なところから始めることとした。</p> <p>児童の宣言項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 省資源に努めます。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 水はコップやバケツに入れて使い、むだ使いしません。 (2) アルミ缶集めを行い、リサイクルをします。 2 省エネルギーに努めます。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 電気のスイッチをこまめに切ります。 3 環境保全に努めます。 <ol style="list-style-type: none"> (1) そうじやボランティアを一生懸命にします。 (2) 花いっぱい、緑いっぱいの学校にします。 (3) 学年に応じて、環境学習を行います。 <p>職員の宣言項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 省資源・リサイクルに努めます。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 裏面利用や両面印刷し、紙の消費量を削減します。 (2) ごみの分別に努めます。 2 省エネルギーに努めます。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 照明のスイッチをこまめに切り、消費電力を削減します。 3 環境保全に努めます。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 校地・校舎の美化に努めます。 (2) 各学年の栽培体験活動に積極的に取り組みます。 (3) 学校の環境への取組を家庭、地域に伝えます。 (4) SDGsの視点で環境学習を行います。
行動		<p>本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症になったことに伴い、これまで制限していたいろいろな活動の再開が考えられた。そこで「栽培活動に関すること」と、SDGsの視点を取り入れた「資源保護に関すること」を重点的に取り組むこととした。</p> <p>【栽培活動に関すること】</p>



- 1 花を育てる
年に2回花苗の移植をして育てる。
- 2 野菜を育てる
2年生は生活科の時間に、一人一鉢と花壇で野菜を育てて、収穫をする。
1年生から4年生までは、学校農園にさつまいもを植えて育て、収穫をする。
- 3 米作り
5年生は地域の方の田んぼを借りて、米を育てる。
- 4 茶摘みと茶揉み体験
3年生は、5月に茶摘みと10月に茶もみ体験をする。
- 5 梅ちぎりと梅ジュース作り
1・2年生は、生活科の時間に梅ちぎりと梅ジュース作りを行う。
- 6 椎茸の駒打ち体験と椎茸の収穫
3年生で椎茸の駒打ちをし、5年生でその椎茸を収穫する。

【環境保全に関すること】

- 1 アルミ缶の回収（環境委員会を中心に）
本年度も環境委員会の児童で話し合い、毎週水曜日を「アルミ缶ウエンスデー」として、アルミ缶の回収を行うことになった。また、アルミ缶スタンプラリーも定期的に行っている。
- 2 節水キャンペーン（環境委員会を中心に）
節水キャンペーンでは、節水を意識させる取組を行う。
- 3 あいさつで環境をよくしようキャンペーン
(環境委員会を中心に)
あいさつをして「あいさつの花」に色を塗っていくキャンペーンを行う。(3年間継続した取組)
- 4 番所の棚田についての学習
3年生は、総合的な学習の時間に「菊鹿さきもり隊」の方々から「番所の棚田」についての話を聞く。
- 5 郷土料理作り
6年生は、地域の方に教えていただきながら郷土料理作り等を行う。
- 6 緑の少年団としての植樹と森林教室
本校は緑の少年団に加入している。その活動を行い、森林保全について学ぶ。



記
録

【栽培活動に関すること】

1 花を育てる

昨年度までの反省から、今年はマルチを張って春・秋の花の移植を行った。夏休み中の水掛けは、うさぎの飼育当番とともに、児童が交代で担当している。2回目の花植えは、夏・秋の花が咲き続けていたことや花苗の準備ができなかったことで、例年より遅い12月18日前後に行った。

2 野菜を育てる

3年生の花壇では、たくさんのきゅうりとピーマンが収穫でき、毎朝確認する姿が見られた。

サツマイモは穴熊の被害が心配されたが、今年はたくさん収穫することができた。

3 米作り

5年生は、例年地域の方の田んぼを借りて米を育てている。JA青年部の方からは温湯消毒の方法を教えてもらい、地域の方からは種まきから収穫までの管理を教えてもらいながら育てた。




4 茶摘みと茶揉み体験

学校農園には茶畑があり、毎年茶摘みを行っている。新芽の部分丁寧に摘み、近くの製茶工場でお茶にしてもらった。

また、山鹿市の茶業組合の方に教わりながら、茶揉み体験も行った。お茶の葉を大きな釜で煎って、むしろの上で揉んでいく。その後、釜で煎っていくと、煎茶ができる。お茶のことについても教えてもらい貴重な経験となっている。お茶摘みをしたり茶揉み体験をしたりした後のお茶をその場で飲むのは格別ようで、お茶が苦手だったという児童も挑戦する姿が見られた。給食では、お茶ゼリーにして提供してもらっている。

5 梅ちぎりと梅ジュース作り

1・2年生は、生活科の時間に梅ちぎりと梅ジュース作りを行った。本校に隣接する地域の方の畑の梅2本分をちぎらせてもらっている。それを洗い、穴を開けて氷砂糖とともに瓶に入れて保管し梅ジュースを作った。2ヶ月後に、水で薄めて飲む

		<p>ことができた。</p> <p>6 椎茸の駒打ち体験と椎茸の収穫</p> <p>3年生では、虹の会（菊鹿町の学校応援団）の方に準備して教えてもらいながら、保護者も一緒に椎茸の駒打ちを2月に行う予定である。</p> <p>5年生では、学校の近くの地域の方の山に置いてあった1年半前に駒打ちした原木からしいたけを収穫した。</p> <p>【環境保全に関すること】</p> <p>1 アルミ缶の回収</p> <p>本年度は、66kgのアルミ缶を集めることができた。前日にアルミ缶回収を行うことの呼びかけを行い、当日は集まったアルミ缶の量を放送している。アルミ缶スタンプラリーも定期的に行い、アルミ缶を一個でも持ってきてくれたらシールを1個貼り、3個たまったら折り紙で折ったプレゼントを渡している。</p> <p>2 節水キャンペーン</p> <p>個人の判断ではあるが節水できた（鉛筆の太さくらいの水量）と思ったときは色を塗っていく用紙を配り取り組んでいった。給食の時間の放送で、節水すると資源を大切にすることになり、水をきれいにして排水するための電気も少なくなることも伝えていった。達成者も数多く見られたが、意識の差があり、期間内に達成することができない児童も見られた。</p> <p>3 あいさつで環境をよくしようキャンペーン</p> <p>取り組んで3年目になる今年も、あいさつをして「あいさつの花」に色を塗っていくキャンペーンを行った。「あいさつをすると、まわりの人を明るくしたり、なかよくなったりして環境が良くなる。」と考えたキャンペーンである。その内容は、①笑顔で5人にあいさつ、②元気よく5人にあいさつ、③立ち止まって5人にあいさつ、④大きな声であいさつ、⑤頭を下げたあいさつ、⑥進んで5人にあいさつ、⑦会釈で5人にあいさつ、⑧5人の友達にあいさつ、⑨地域の5人の人にあいさつ、⑩5人の先生にあいさつの10項目からその日一日のめあてを決めて取り組むものであった。</p> <p>4 緑の少年団の活動として</p> <p>本校は、緑の少年団に入りその活動も行っている。森林教室・植樹祭への参加などである。森林・木工教室は、鹿本地域振興局農林部林務課の方など8名の方に来ていただいて、森林の働</p>
--	---	---

  	<p>きをクイズ方式で教えてもらった。その後は、木の板で本立て作りを教えていただき、家庭に持ち帰って使用している。2月には、ゆうきの森へ出かけて、森林体験活動を行う予定である。</p> <p>5 地域の方から話を聞く</p> <p>3年生は、総合的な時間に番所の棚田についての学習を行った。「菊鹿さきもり隊」の方々から、棚田が地域の自然を守っていく働きをもっていることを教えてもらった。番所地区の農地を活用した農業体験ツアーの企画など、楽しみながら田の役割や重要性を知ってもらう取組の話も聞いた。「番所の棚田を守っていきたいと思いました。」と感想を述べた児童もいた。</p> <p>6 郷土料理作り</p> <p>6年生は、地域の食育研究会の方から、伝統的な盆料理「山帰来だんご」「きゅうりのみそもみ」「人参の酢の物」を教えてもらいながら一緒に作った。山帰来だんごがなぜ食べられるようになったかなど食文化の話も聞き、楽しい時間となった。</p> 
見直し	<p>1 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症になったことに伴い、これまで制限していたいろいろな活動の再開を行い、地域の方との交流ができた。</p> <p>2 花植の時期が遅くに</p> <p>10月下旬に計画していた花植は、1ヶ月以上遅い12月18日前後になってしまった。気温が高く花苗（購入予定だった地域の方の苗）が育っていなかったり、夏の花がずっと咲いていたりしたためである。地域の花壇も、12月になってからの移植が多く見られた。また、昨年度までの反省の元にマルチを使った花苗植えを行った。きれいな花を咲かせるためには草取りの必要があるが、雨天の日が続いたり猛暑が続いたりすると、花壇の草が伸びてしまい手入れができなくなるからである。</p> <p>3 暑さや乾燥に強い花を育てる</p> <p>数年の花の世話を通して、暑さ寒さに強い花や、開花時期が長い花があることがわかってきた。卒業式で使った花を世話しながら咲き続けさせることを考えて、苗の購入を行うようにした。</p>

(2) 成果と課題

成 果	課 題
<p>○新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類感染症になったことに伴い、これまで制限していたいろいろな活動の再開ができた。本校は地域の方の協力を得て、米作り、しいたけ栽培、茶摘み、茶もみ体験、うめちぎり・梅ジュース作りなどの栽培・収穫などの活動を行うことができた。J A 青年部の方や虹の会（菊鹿町の学校応援団）、菊鹿町の食育研究会など、学校を応援して下さる地域の方がいらっしゃる。</p> <p>○学校内には畑があり、サツマイモやキュウリなどを植えて、身近なところで栽培から収穫までを経験することができている。</p> <p>○花壇に花を植えた時期に雨が続き、芽が出た花や移植した花が枯れたり、夏の気温が高く雨が降らない日が続いて野菜の収穫ができなかったり、冬の花を移植する時期が遅くなったり、夏の花が 1 2 月まで咲いていたりしたが、その経験から気象状況に関心をもったり、自然環境との関連を考えたりすることができた。</p> <p>○環境委員会が節水キャンペーンを行ったことで、節水の必要性和節水の方法を考え実践することができた。</p> <p>○本年度も 6 6 k g のアルミ缶の回収ができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気象状況の変化が大きく、栽培活動を今後どう行っていくかが大きな課題である。購入する花苗の育ち具合、植え付け後の気候など、考えなければならないことが多い。 ・児童数の減少や教育課程の見直しなどで、草取りや清掃活動に当てる時間が減少していく中、活動の見直しが必要になってくる。その中の一つが、マルチを張った花の移植に繋がった。しかし、きれいな花を咲かせるための草取りや水掛けなどの体験ができない。 ・まだ、いろいろな感染症や熱中症の対策のために、換気をしながら冷暖房をつけたり、頻繁に手洗いをしたりする必要がある、節電や節水の難しさを感じる。